

本堂葬儀の勤め方～真宗大谷派儀式作法～

日程〔最終確認〕

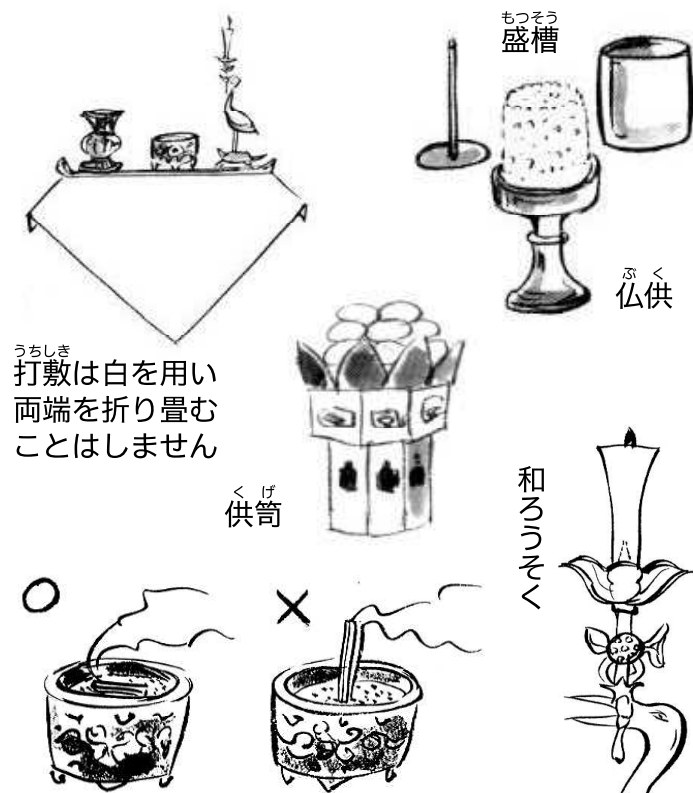
しゅつかん ごんぎよう 出棺勤行	月 日 ()	時 分 ～	自宅
つや ごんぎよう 通夜勤行		時 分 ～	本堂 市斎苑 洋・和
そうぎ 葬 儀	月 日 ()	時 分 ～	本堂 市斎苑 洋・和
かんこつ ごんぎよう 還骨勤行		時 分 ～	本堂 市斎苑 洋・和

事前の準備・心得

①死触れ

ご家族が亡くなられたことを檀那寺（＝所属寺院）に通知することを「死触れ」と言います。遠方の場合は仕方ありませんが、出来るだけお寺に直接ご報告下さい。深夜でも構いません。

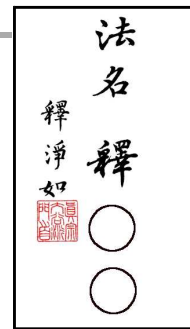
②お内仏（仏壇）の準備



- まず掃除をし、白い打敷（うちしき）を掛けて下さい。仏華には 櫛（しきみ）（青木）を挿します。
- ご本尊・脇掛け前にはお仏供（ぶく）をあげます。一昼夜供えて、毎朝新しく取り替えます。
- お華束（＝おかざり）は供筒（くげ）に白いお餅（もち）か白饅頭（まんじゅう）を盛（うわじよく）って上卓（うわじよく）の両側に供えます。
- ろうそくは必ず白色和ろうそくを用います。洋ろうそくは使いません。
- 線香は立てずに灰の上に寝かせ、一膳飯（いちぜんめし）や、コップや杯で水を供える必要はありません。
- お墓の華（はな）も、櫛（しきみ）（青木）に換えて下さい。

③その他の準備

- 故人が生前に^{きぎようしき}帰敬式を受式され、^{ほうみよう}法名 または ^{いんごうほうみよう}院号法名 をお持ちの場合は住職にお示し下さい。
- 同じく生前より^{しゅいんちよう}朱印帳 や ^{しゃきよう}写経 等を準備されていた場合も住職にお教え下さい



④枕直し勤行

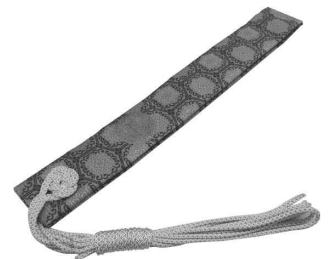
お内仏（仏壇）の準備が整ったら、枕直し勤行を住職が勤めます。これは、故人の枕をお布団からお棺へ移すお勤めです。合わせて、亡くなられたこと、帰宅されたことをご本尊とご先祖に^{ほうこく}奉告する意味も含まれます。近親者だけでも結構ですので、一緒に^{しょうしんげ}正信偈のお勤めをします。

⑤葬儀委員長の選定

葬儀委員長を指名して下さい。近親者より^{いつとう}一統の^{ねんぱい}年輩の方がよいでしょう。葬儀委員長は専用の^{きしよう}記章を着け、喪主より葬儀執行に於ける一切の権限を依託されます。喪主とご家族の方はご供養に専念していただき、事務的で煩雑なことは葬儀委員長を中心とした組織が代行します。故人の人生を締めくくる感謝法要を、多くの方に関わっていただき作り上げたいという願いも込められています。

⑥喪家の服装

お通夜から^{もふく}全員喪服を着用して下さい。念珠は常に左手に持ちます。^{かたぎぬ}肩衣があれば着用します。故人に院号をつける場合には、東本願寺の正式な肩衣を差し上げます。喪主は左胸下に^{きしよう}記章をつけます。お通夜から^{かんこつごんぎよう}還骨勤行まで、この服装でお願いします。



⑦生活心得

^{そうか}喪家と故人の子にあたる方は、^{きめい}忌明法要（三十五日法要）が終わるまでお^{しやうじん}精進を心がけて下さい。また、^{ゆうきよう}不急の用事（観光旅行や宴席や遊興など）や神社へのお参りなどは控えて下さい。



⑧真宗大谷派（東本願寺）の基本的作法

男性用念珠

- 房は組紐が正式です
以下は宗派が違います



- 色や素材は自由です
- 一輪に限りです

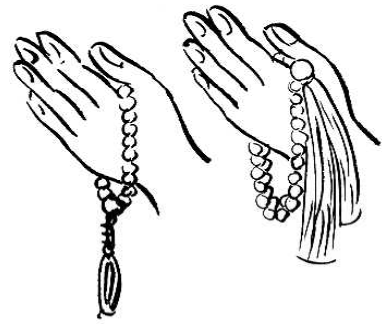


女性用念珠

- 喪服を着た時は透明か白の珠に^{たま}白房が正式です
- 一輪でも二輪でも結構ですが二輪の方が格式の高い念珠です



- 合掌** ●一輪念珠は紐や房を下にして合掌します（左図）
 ●二輪念珠は房を上を保って合掌します（右図）
 ●合掌していない時は、左手に持ちます



- 念仏** ●合掌した時は、必ず「なむあみだぶつ」または「なんまんだぶ」と声に出して念仏を唱えます

焼香

まず姿勢を正します
 ご本尊を仰いで
 軽く頭を下げます
 ※初めには合掌はしない

右手の指3～4本でお香を取り
 手前に半円を描くようにして引き
 香炉の正面から焼香
 同じ所作を二回行います
 ※額に押し頂かない

最後にお香の乱れを直し
 右手も念珠に入れて静かに合掌
 念仏を4～5回唱えて
 合掌を解き
 軽く頭を下げて下がります



⑧葬儀における焼香順名簿の作成

葬儀では、参列者全員の名前をお呼びして焼香して頂きます（通夜は名前の呼び出しはありません）。これは、わざわざ会場まで足を運んで下さった方へ礼を尽くすために大切なことです。また、喪家（そうか）がご親戚のつながりや故人の人間関係をきちんと把握することで、故人の人となりに出会うという願いも込められています。

ご家族やご親戚の方ともよく相談して、事前に読み上げ名簿を作成しましょう。葬儀における焼香順位の基本的考え方は、以下の通りです。

- ① 喪家（そうか）
- ② 故人の子（家族単位）
- ③ 葬儀委員長
- ④ 喪家の新家
- ⑤ 故人の孫
- ⑥ 故人の兄弟姉妹（本人か配偶者が存命の場合）
- ⑦ 故人の配偶者の兄弟姉妹（本人か配偶者が存命の場合）
- ⑧ 来賓 1) 町内会長 2) 市会議員 3) 組長
4) きらめきクラブ会長 5) その他
- ⑨ 喪主の配偶者の親族
- ⑩ 故人の兄弟姉妹の親族
- ⑪ 故人の配偶者の兄弟姉妹の親族
- ⑫ 一統
- ⑬ 一般

町内関係受付

おねがい

～ お名前に“ふりがな”を～

本日の葬儀にお参り頂きまして
 心より御礼申し上げます

御足労を賜りました
 ご参列の皆様のお名前を
 お焼香時にできるだけ
 お呼びしたいと思いますので
 ご記帳のお名前に「ふりがな」の
 ご記入をお願い致します

— 誠に勝手ながら葬儀開始10分前までに受付を
 済まされた方までのお呼び出しとさせていただきます —

真宗大谷派 本龍寺

出棺勤行（しゅっかんこんぎょう） 於；自宅

①お勤め

自宅からの出棺に先立ち、ご本尊とご先祖とお屋敷に最後のお別れをするお勤めを行います。「お別れ勤行」とか「お名残勤行」とも言います。お身内の方は、全員お内仏（仏壇）の前に集合して下さい。

出棺勤行は、6～7分の短いお勤めです。代表焼香として、喪家・故人の子（夫婦単位）・葬儀委員長のみ焼香します。

②お見送り

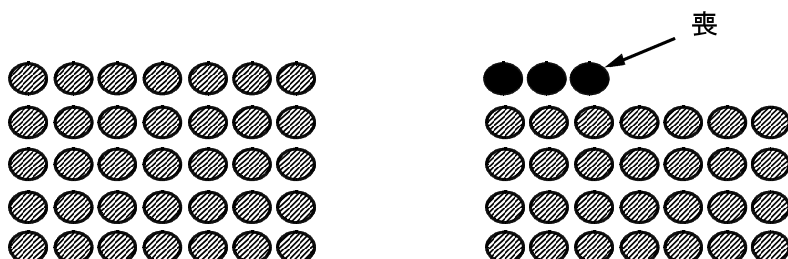
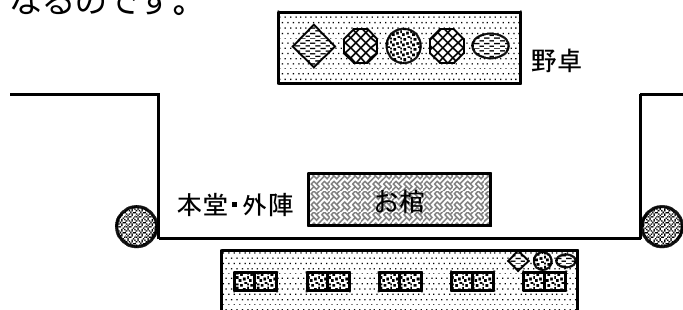
自宅以外で葬儀を行う場合、年配のご友人などは通夜・葬儀に参列しにくくなります。多くの縁ある方々に故人のお顔を見てお別れ頂くため、組長・拾長・きらめきクラブなどへ出棺時間の連絡をして下さい。霊柩車に乗る前に、ストレッチャー上で最後のお見送りをして頂きます。

通夜式（つやしき） 於；本堂

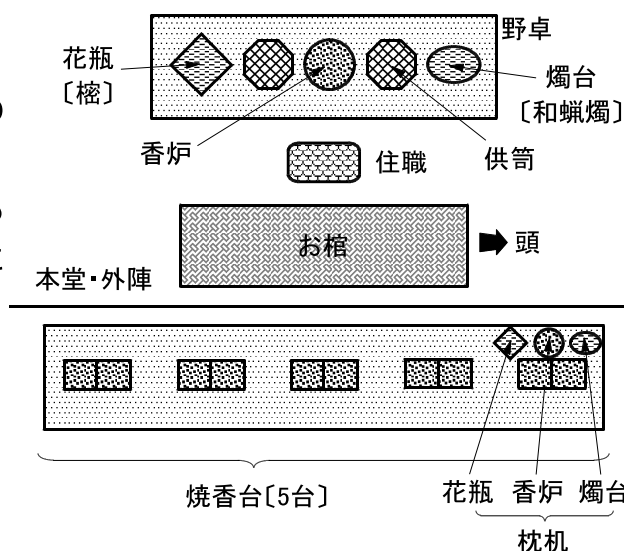
①事前の準備

本堂にて、右図のように野卓^{のじよく}などを設置します。これらは本龍寺と葬儀社がすべて用意します。

住職は、お内仏（仏壇）とお棺^{かん}の間に座ります。これは故人が、身体のある最後の夜に、人生最後の感謝法要をなさる、その代理に住職が勤めるという意味を持ちます。またご遺族は、住職の後ろに座ることにより、故人の背中もご本尊として拝むことになるのです。



本堂・内陣

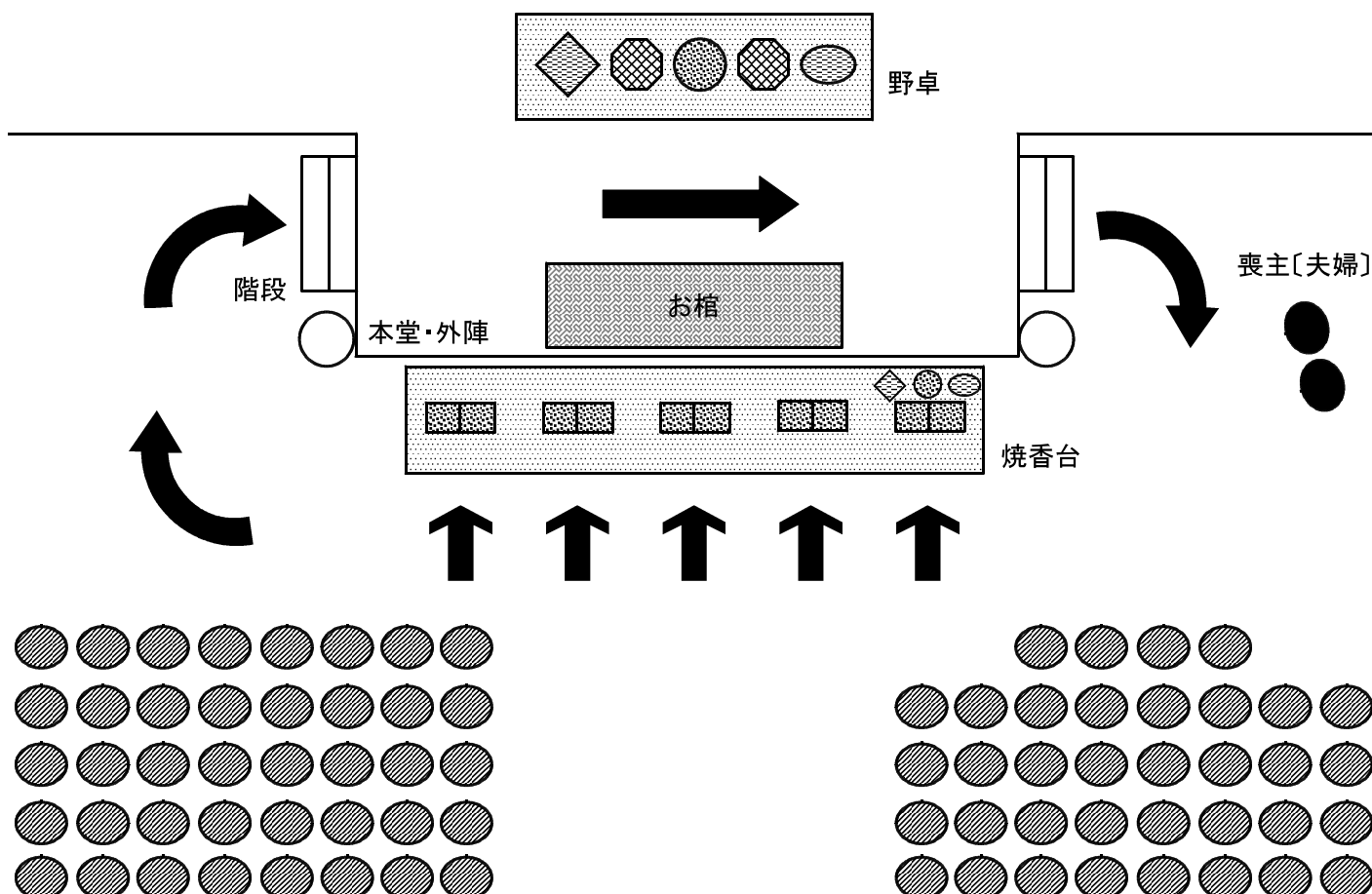


参列者は全員、御本尊に向かって前を向いて整列します。

夫婦は相対的に夫が右・妻が左に並ぶのが正式なので、喪主が右隅にならないよう右側一列目は喪家のみお座り頂きます。

② 勤行次第

- ① 定刻5分前には全員着席。『正信念仏偈』が配られます。定刻に開式します。
- ② 勤行中は焼香を行いません。全員で正信偈をお勤めします。勤行後、住職より法名説明等の法話があります。
- ③ 続いて喪主挨拶です。ご夫婦揃って前に出ます。ここでは、故人の晩年の暮らしぶりや最後のご様子、ご遺言などのお話をお願いします。挨拶後、復座します。
- ④ 「一同合掌」の後、焼香に移ります。喪家から焼香し、次にお身内が焼香します。その後は、前の席から順に焼香します。葬儀社の係が誘導します。
- ⑤ 焼香の後、左手より外陣に上がり、お棺の故人にお別れのご挨拶をして、右手より外陣を下ります。喪主（夫婦）のみ会場の右前方に留まって、後に続く参列者全員の焼香が終わるまで、弔問やお悔やみを受けて下さい。
- ⑥ 同様に他の参列者も焼香の後、外陣に上がって故人の尊顔にお別れをし、外陣を下りて喪主に挨拶をして頂きます。足腰の不安な方は、無理をしないようにアナウンスが入ります。
- ⑦ 焼香が終了したら閉式します。参列者が多く焼香が長時間になる場合は、自由解散となります。住職は最後まで立ち会います。



葬儀式（そうぎしき） 於；本堂

① 梵鐘 ぼんしょう

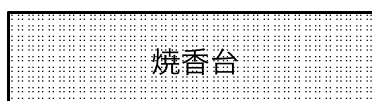
本堂葬儀の場合は、和泉中に今日の葬儀を知らしめるため開式30分前に梵鐘をゆっくり（約30秒間隔で）4回突きます。鐘つき係を決めて、鐘つき堂に配置して下さい。



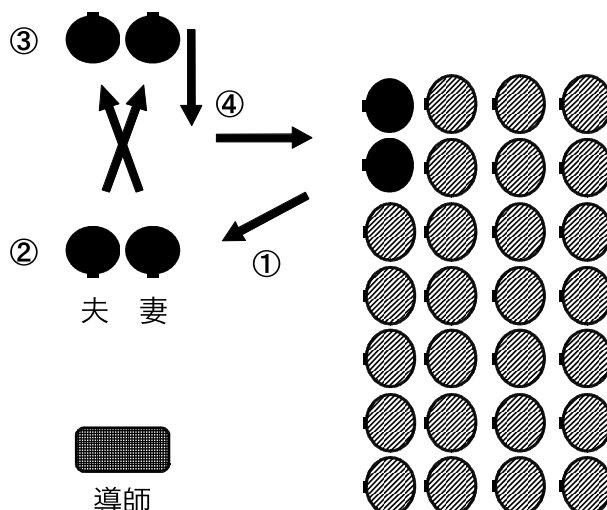
② 葬場勤行での焼香 そうじょうこんぎょう

葬儀中の焼香は特別な所作しよさになります。開式前に司会者から作法練習があります。

① 名前を呼ばれたら前に進みます。
夫婦は、夫が常に妻の右側に位置するように並びます。



② 導師どうしにずらい対面し頭礼します。合掌は不要です。



③ 次に祭壇の前に進んで、それぞれ焼香します。

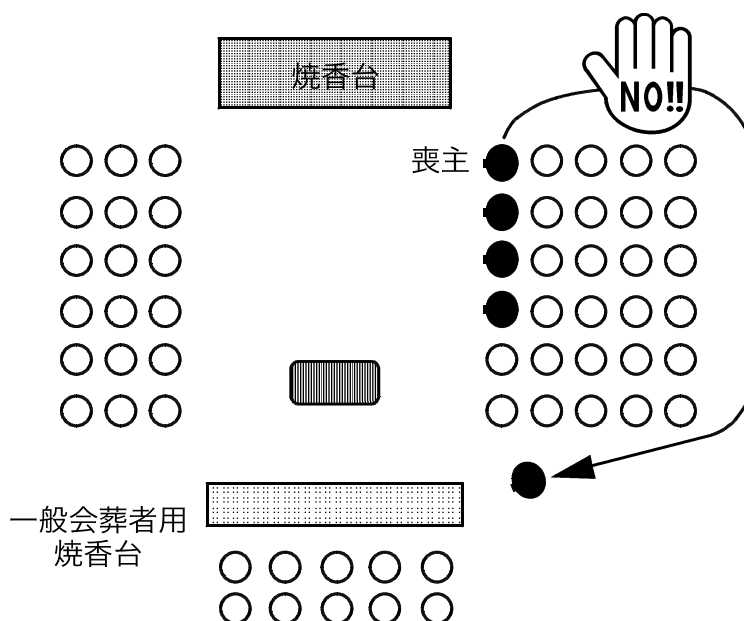
④ 焼香後、導師どうしに向かってもう一度ずらい頭礼してから復座ふくざします。合掌は不要です。

③ 喪主の席

儀式中、喪主が席を外し一般会葬者に挨拶に出向くことは謹んで下さい。喪主は葬儀の中心であり、最も大切な仕事は仏前で襟を正して手を合わせる事だからです。

ただし、どうしても仕事の都合等で後方の会葬者への挨拶が必要ならば、会社役員や親戚の方等に代理を頼んで下さい。

喪家は焼香以外、葬儀終了まで席を離れないようお願いします。



④ 弔電 ちょうでん

弔電が非常に多い場合〔当日届いた分も含めて〕の披露は、喪家において30通程以内に厳選し司会者に報告して下さい。これは、わざわざ身を運んで会葬して下さった方にこそ敬意を払い、暑い中や寒い中に辛い思いをさせないための配慮であります。

⑤ 灰葬勤行 はいそうごんぎよう

弔電披露の後、短いお勤めがあります。火葬場で勤めるのが本来ですが、葬儀場で行うことを通例としています。この読経は短いので、代表焼香となります。喪家・故人の子〔夫婦単位〕・葬儀委員長のみ焼香に出て下さい。

⑥ 出棺

葬儀で使った白木位牌と表いはい白ひょうびやくは、お棺に入れて一緒に燃やします。

故人の朱印帳や遺品、写経やお花など、葬儀社の指示に従ってお棺に入れます。基本的には燃えない物は入れてはいけません。

葬儀社の指示に従い、お棺を火葬場へ送ります。
茶毘だびにふしている間に、昼食を済ませます。



収骨（しゅうこつ） 於；安城市総合斎苑

① 2つのお骨箱

指定された収骨の時間に、安城市総合斎苑の収骨室に集合します。火葬場職員の指示に従ってお骨を骨箱に収めます。陶器製の骨壺（下左図）は使わないで下さい。なるべくすべてのお骨を収骨します。

大きな骨箱（下中図）はお墓への納骨用、小さな六角骨箱（下右図）は京都東本願寺や本龍寺内陣への分骨用です。追って詳しく住職から説明があります。



還骨勤行（かんこつごんぎょう） 於；本堂

①御経

還骨勤行から初めて御経を読みます。御経はお釈迦さまの直説で、正信偈よりも格式の高いものです。お骨になった故人を、仏さまとして拝む生活を始めます、という意味を持ちます。お勤めは休憩を入れずに約25分です。

②謝辞

勤行後、葬儀委員長・喪主の順に挨拶して頂きます。これが通夜から葬儀、還骨勤行までの一連の節目になります。

③中陰壇

お骨を安置する台を中陰壇といいます。還骨勤行の後、葬儀社がご自宅のお内仏（仏壇）右に設置してくれます。この台は三十五日（忌明け）法要まで使用します。

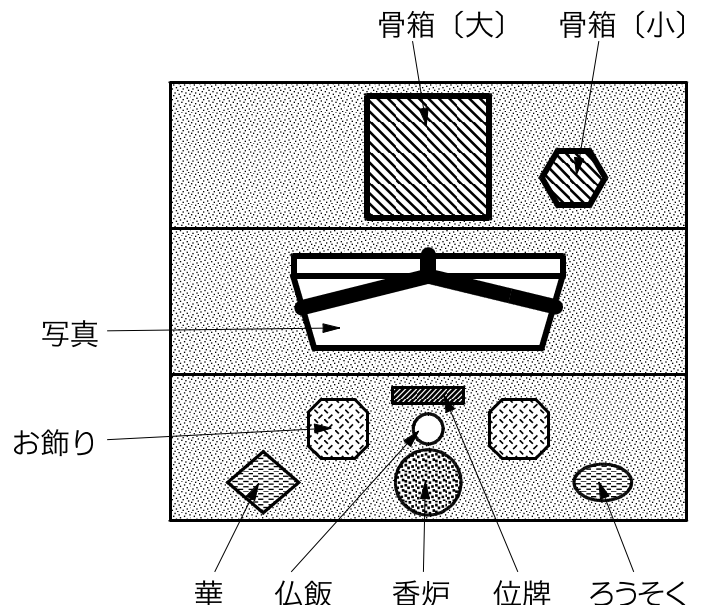
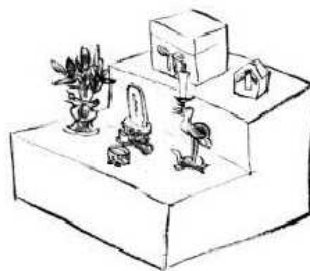
①白の和ろうそくを用います

②花瓶には 桜 をさします

③お飾りは白のお餅か

白饅頭を用います

④枕花には色花を用いて構いません



④帰宅後のお給仕

お仏供 … お内仏（仏壇）＝ 本尊と両脇掛けに毎朝お供えし、夕方に下げます。
夜に 中陰法要（七日勤め）がある場合は、新しくお供えします。
中陰壇 … 位牌前にお供えします。一昼夜供えて毎朝交換します。
正信偈 … 出来れば毎晩、ご家族揃って正信偈のお勤めをしましょう。

専属司会者について

①経緯

葬儀社が用意する女性司会者は、統一性がなく、知識や力量にばらつきが多いのが現状です。昨今では、作法にない自己流や好みでショーアップをする傾向も顕著になりました。

そこで拙寺では専属司会者を採用し、真宗大谷派の伝統を重んじた品格ある、円滑進行の儀式実現を目指しています。また、和泉の文化や伝統を学び、一統の年配者が担ってきた相談役的な役割補佐もさせていただきます。ご要望・ご相談、どんなことでもお気軽にお尋ね下さい。

②司会礼

一般的な葬儀社では、請求書の中に司会料という項目があり、一括請求されます。これを廃目もしくは請求しないよう、葬儀社側に申し入れてあります。司会礼（10p.）を包んでいただき、葬儀礼等と一緒にお寺にお届け下さい。源泉会計処理をした上で後日、司会者本人に渡します。

専属司会を採用した事による、そうでない場合との追加的費用は一切ありません。



本龍寺 使用内規

◎会場使用料 … 本堂（通夜・葬儀） + 同朋会館（休憩・お食事・宿泊） 2018年12月改定

使用場所	使用区分	金 額	参考〔安城市総合斎苑の場合〕
本堂 どうほう 同朋会館 （一括）	通夜 葬儀～還骨勤行〈初七日〉 ※休憩・宿泊込み	50,000円 ※本龍寺檀家 の場合	洋式場 約6.4万円〈含待合室等〉 + 祭壇費 約30万円〈安城市平均〉

※使用料には、本堂・同朋会館・しょうごん 荘厳一式の使用すべてが含まれます

※御布施〈導師・役僧〉や葬儀社への支払い〈お棺・枕飾り一式・霊柩車・食事など〉は別途です

※和泉町内の他檀家の方、町外の一般の方も使用できますが、葬儀には本龍寺住職もしくはそれと同等の真宗大谷派僧侶がお立ち会いをします

※和泉町内の他檀家の方の使用料は **70,000円**、町外の一般の方の使用料は **100,000円** です



葬儀後のことについて

①三十五日（忌明）法要

ご家族が亡くなられたことに伴って、喪家と故人の子どもにあたる方は、お精進・不急の用事（観光旅行や宴席や遊興など）、神社参詣などを控えていただきます。忌明法要は、この一連の喪に服する生活が完結成就し、忌が明ける法要であり、年忌法要の格式で勤めます。また、この法要の後には納骨が出来るようになります。

法要の詳細、納骨、準備、お斎（食事）、お手伝いなどは、追って住職から詳しい説明があります。

②五十ヶ日・百ヶ日

三十五日（忌明）法要が勤まると、喪家と故人の子どもにあたる方の生活は平常に戻ります。お内仏（仏壇）の打敷やお華束（＝おかざり）はすべて下ろし、以降は仏飯のみのお給仕となります。毎朝供えて、正午前に下ろすのが原則です。

中陰表（10p.）にある五十ヶ日法要・百ヶ日法要の前日、もしくは当日になったら、あらためて打敷とお華束（＝おかざり）を準備します。



真宗大谷派

本龍寺

〒444-1221 愛知県安城市和泉町中本郷41

TEL.0566-92-0505 FAX.0566-92-5212

HP(ホームページ) <http://www.honryuji.net>

E-mail honryuji@poplar.ocn.ne.jp

